

有機農業技術のつぼ

作物名	大豆
対応技術の項目	除草技術
	生物的防除法
	リビングマルチ（秋まき小麦）の導入

《情報収集先の経営概要等》

名寄市 公益財団法人 農業・環境・健康研究所 名寄研究農場
 昭和50年より自然農法を実施（有機年数39年）

経営耕地面積 6.6ha（全面有機）

油用ヒマワリ	3.35ha	緑肥用ヒマワリ	1 ha
ばれいしょ	0.34ha	赤クローバ	0.78ha
かぼちゃ	0.17ha	ハトムギ	0.62ha
世界のヒマワリ展示	0.16ha	教育ファーム	0.16ha
大豆	0.02ha		

労働力 従業員10人
 有機JAS認定の取得状況 平成14年取得

問題点

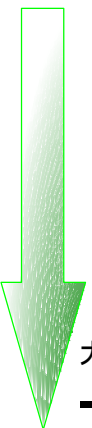
雑草防除に係る労力負担が大きかった



- 有機栽培では除草剤が使用できないため、機械除草や手取り除草を行っていたが、農作業に係る労力負担が大きかった。

対応

リビングマルチとして小麦を導入した つぼ

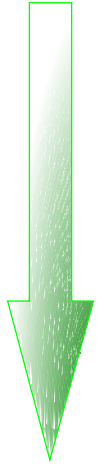


- 大豆の畝間に、秋まき小麦「ホクシン」を間作（は種）し、雑草の発生抑制を図った。
 - ・ は種時期 : 大豆（ユキホマレ）のは種30日後
 - ・ は種量 : 10kg/10a（他のは種量を含め栽培試験を実施）
 - ・ 除草等 : 中耕除草を行った後に小麦をは種。

※ は種した秋まき小麦は、低温に遭遇することがないため、最終的には出穂しないで枯死する。

大豆収穫時の秋まき小麦と雑草の生草重量			大豆収穫量			
(kg/10a)			(kg/10a)			
秋まき小麦 は種量	生草重量		秋まき小麦 は種量	全子実重	製品重量	総重量
	秋まき小麦	雑草				
0kg/10a	—	20	0kg/10a	311	246	500
5kg/10a	63	6	5kg/10a	307	246	493
10kg/10a	162	5	10kg/10a	333	267	534
15kg/10a	118	5	15kg/10a	309	245	503
20kg/10a	171	11	20kg/10a	326	258	525

注) 試験年度：平成25年度



大豆畑全景



収穫時の状況



秋まき小麦間作なし



秋まき小麦間作10kg/10a

※ **対応技術活用上の注意点**

- ・ 秋まき小麦の発芽を安定させるため、種子と土壌とを「キューホー」等で混和する。

成 果

雑草の発生が抑えられ、大豆の収量が増加した

- 雑草の生草重量 導入前 20kg/10a → 導入後 5kg/10a
- 収量（大豆） 導入前 311kg/10a → 導入後 333kg/10a